

九頭竜川水系で新たに確認された汽水・海水魚

加藤 文男*

Notes on the newly collected fishes (brackish water and saltwater fishes)
entering into the Kuzuryu River system from Japan Sea

Fumio KATO*

(要旨) 福井県九頭竜川の中・下流域に侵入する汽水・海水魚で、これまでの1993~2006年に新たに確認された汽水魚の2科6種, 海水魚の13科17種, 計15科23種について報告する。これらを従来の記録に加えると、九頭竜川水系の汽水・海水魚は全部で31科48種になり、その河川遡上状況についても記した。

キーワード: 九頭竜川水系, 新確認魚種, 汽水・海水魚

はじめに

九頭竜川は流路116km, 流域面積2,930km², 福井平野を貫流して日本海へ注ぐ北陸屈指の大川で、日野川, 足羽川, 竹田川, 真名川などの主な支流がある。本水系の魚類については五十嵐・加藤(1966), 平井ら(1972), 加藤(1985, 1992, 1993, 1998 など)の報告

があり、かなり詳しく明らかになっている。

その後1993~2006年に、新たに九頭竜川で汽水・海水魚の15科23種が確認されたので報告する。資料は近年行われてきた河川水辺の国勢調査等(建設省, 1993~2000, 国交省, 2005)が主で、その他に岡(2007)や筆者の確認も加えたが、最初の記録を優先した。

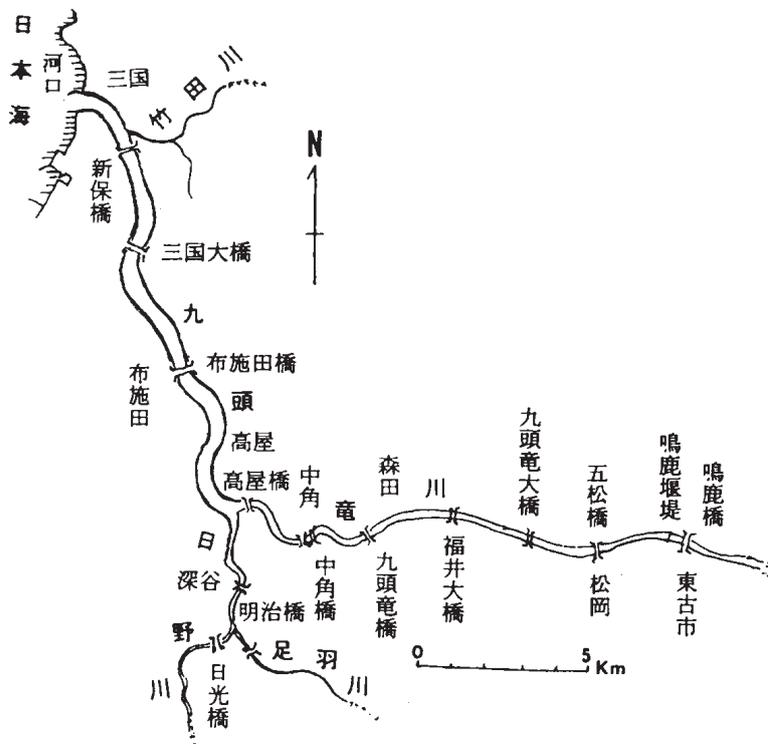


図1: 九頭竜川 中・下流域

* 福井陸水生物研究会 〒916-0026 福井県鯖江市本町2丁目3-11

* The Society of Fukui Freshwater Biology, 2-3-11 Honmachi, Sabae City, Fukui 916-0026, Japan

中・下流域の自然環境 河床型から見ると、本流の河口から高屋橋付近(福井市、河口から15km)までがBc型の下流域、そこから上流の柿ヶ島(大野市)まで(約45km)がBb-Bc移行型と主にBb型で占められ中流域に当たる。

海水の浸入(塩水くさび)による塩分の影響は、本流では新保橋の上付近(河口から3.5km上)までは常時および、汽水域に当たる。さらに上流の高屋橋付近(河口から15km上)までは海水の影響を受けることがあり、感潮域に当たる。その上の中角橋(河口から19km上)から上流は常時淡水域となっている。

支流の日野川は本流より川底がやや低いため、合流点から3km上流(河口から19.5km)の日光橋付近までが感潮域に当たる(図1)。

結果と考察

新たに確認された汽水・海水魚はサツパ、メナダ、ネズミゴチ、シマイサキなど15科23種で、表1に魚種とその分布確認地点を示した。

1. 汽水魚：ハゼ科のアベハゼ、アシシロハゼ、ミミズハゼ、シモフリシマハゼ、ウロハゼとシラウオ科のシラウオの計2科6種で、いずれも本県の他の河川でもみられ(加藤, 1985, 1998)自然分布と考えられ、九頭竜川では初めての記録である(図2)。

(1) シラウオ 河口から1km上流で、2007.4.18に3匹捕獲された(岡, 2007)。本種は日本海岸に広く分布し、河川や湖沼の汽水域に生息する。福井県では三方湖群や北方湖でいくらか確認されているが(加藤,

1998)、河川では少なく九頭竜川では初記録で、恐らく産卵期の個体と思われる。

(2) アベハゼ(図2A) 新保橋と布施田橋付近(河口から約10km上)で確認され、感潮域の上流端までかなり遡上していた(図3)。本種は宮城県、福井県以南の本州、四国、九州に分布し、汽水域に生息する雑食性の魚で春・夏が産卵期、水質汚濁にかなり強いといわれる(岩田, 2005)。本県が日本海側の分布域の北限に当たる点で、分布上注目される。

(3) アシシロハゼ(図2B) 新保橋と中角橋付近で確認され、感潮域の上流端付近まで遡上していた(図3)。支流の日野川では明治橋付近の汽水域の上流端まで確認された(表1)。本種は北海道、本州、四国、九州に分布し、内湾や汽水域に周年生息し、塩分濃度により順応性が高く、水質汚濁にも強いといわれる(辻, 2005)。

(4) ミミズハゼ(図2C) 新保橋、中角橋付近で確認され、上記のアシシロハゼと同じく感潮域の上流端付近まで遡上していた(図3)。本種は北海道から沖縄島までの各地に分布し、川の downstream から汽水域、海岸の潮間帯まで広く生息、仔魚のうち川でふ化したものは海に降り、そこで生育するといわれる(吉田ら, 2005)。本種の主な生活圏は汽水域と思われ、本報告では汽水魚として扱った。

(5) シモフリシマハゼ(図2D) 河口から新保橋付近(約4km上流)までの最下流域で確認され、汽水域の上流端までは確認できなかった(図3)。本種は北海道から琉球列島にかけて分布し、主に汽水域に分布し、

表1：九頭竜川水系の汽水・海水魚—追加23種— (汽)：汽水魚, (海) 海水魚

科名	魚種(生活型)	学名	分布確認地点	調査年月
シラウオ	1 シラウオ(汽)	<i>Salangichthys microdon</i>	九頭竜川(河口付近)	2006・4*
ニシ	2 サツパ(海)	<i>Harangula zunasi</i>	九頭竜川(布施田橋付近)	1993・10
ハゼ	3 アベハゼ(汽)	<i>Mugilogobius abei</i>	九頭竜川(新保橋・布施田橋付近)	2003・8
	4 ミミズハゼ(汽)	<i>Leucigobius guttatus</i>	九頭竜川(河口～新保橋・中角橋付近)	2003・8
	5 アシシロハゼ(汽)	<i>Acanthogobius lactipes</i>	九頭竜川(新保橋) 九頭竜川(新保橋～中角橋付近) 日野川(明治橋)	1993・6 2003・5, 8 2003・5
	6 シモフリシマハゼ(汽)	<i>Tridentiger bifasciatus</i>	九頭竜川(河口～新保橋付近)	1993・6
	7 ウロハゼ(汽)	<i>Glossogobius olivaceus</i>	九頭竜川(河口～新保橋付近)	1998・5
ボラ	8 メナダ(海)	<i>Chelon haematocheilus</i>	九頭竜川(河口～新保橋) 九頭竜川(布施田橋付近)	2003・6, 8 2003・6
ウミヘビ	9 ダイナンウミヘビ(海)	<i>Ophisurus macrorhynchus</i>	九頭竜川(河口～新保橋付近)	2003・5
フサカサゴ	10 メバル(海)	<i>Sebastes inermis</i>	九頭竜川(河口～新保橋付近)	2003・5
	11 アカブテムラソイ(海)	<i>Sebastes pachyocephalus chelogrammus</i>	九頭竜川(河口～新保橋付近)	2003・5
シマイサキ	12 シマイサキ(海)	<i>Rhyncopelatus oxyrinchus</i>	九頭竜川(河口～新保橋付近)	1998・8
アイナメ	13 クジメ(海)	<i>Hexagrammos agrammus</i>	九頭竜川(河口～新保橋付近)	2003・5
メジナ	14 メジナ(海)	<i>Girella punctata</i>	九頭竜川(河口～新保橋付近)	1998・9
ネズッポ	15 ネズミゴチ(海)	<i>Repomucenus richardsonii</i>	九頭竜川(河口～新保橋付近)	1998・9
カジカ	16 アナハゼ(海)	<i>Pseudoblenius perkoides</i>	九頭竜川(河口～新保橋付近)	2003・5
カレイ	17 マコガレイ(海)	<i>Pleuronectes yokohamae</i>	九頭竜川(河口～新保橋付近)	1998・6
ヒラメ	18 ヒラメ(海)	<i>Paralichthys olivaceus</i>	九頭竜川(河口～新保橋付近)	1993・6
カワハギ	19 カワハギ(海)	<i>Stephanolepis cirrhifer</i>	九頭竜川(河口～新保橋付近)	1998・9
	20 ウマヅラハギ(海)	<i>Thamnaconus modestus</i>	九頭竜川(河口～新保橋付近)	1998・9
フグ	21 コモンフグ(海)	<i>Takifugu poecilonotus</i>	九頭竜川(河口～新保橋付近)	2003・5
	22 ゴマフグ(海)	<i>Takifugu stictonotus</i>	九頭竜川(河口～新保橋付近)	2003・5
	23 ヒガンフグ(海)	<i>Takifugu pardalis</i>	九頭竜川(河口～新保橋付近)	1998・6

*：岡(2007)、他は河川水辺の国勢調査(建設省、1993、2000、国交省、2000、2003、2005)による

クサフグ等は塩分濃度のかなり高い河口付近であった(丹羽, 1967)。

前述の九頭竜川の汽水・海水魚と比較すると、魚種と遡上に共通点がみられるが、長良川ではいずれの魚種も遡上距離が著しく長い点が特徴的である。両河川の環境条件の違いとして、特に河川勾配の他に潮差があり、太平洋側の1.0~2.0mに対し日本海側ではその5分の1程度の0.2~0.3mでかなり弱く、九頭竜川における塩水くさびの達する距離が短いと考えられる。ちなみに長良川の汽水域は河口から約15km、感潮域はそれから上流で河口から約26kmの所まで及ぶといわれる(丹羽, 1967)。

なお九頭竜川へ侵入可能な汽水・海水魚として、前述の他に分布域から、ボラ科のセスジボラ *Liza affinis*, とハゼ科のヒメハゼ *Favonigobius gymnauchen*, ヒメジ科のヒメジ *Upeneus bensasi* などがあげられ、今後の調査で確認されるものと思われる。

引用文献

- 福井県, 1986, 福井県魚類図説. 福井県農林水産部水産課, 86p.
- 平井賢一・田中 晋・水野信彦・須永哲雄, 1972, 九頭竜川・真名川水系の魚類. 建設省真名川ダム漁業調査報告書, 135-195.
- 五十嵐 清・加藤文男, 1967, 福井県の淡水魚類. 「福井県の生物」, 76-84.
- 岩田明久, 2005, アベハゼ. 川那部浩哉・水野信彦編・監修. 日本の淡水魚. 山と溪谷社, 576.
- 岩田明久, 2005, シモフリシマハゼ. 川那部浩哉・水野信彦編・監修. 日本の淡水魚. 山と溪谷社, 608-609.
- 岩田明久, 2005, ウロハゼ. 川那部浩哉・水野信彦編・監修. 日本の淡水魚, 溪谷社, 581.
- 加藤文男, 1985, 福井県の淡水魚類. 「福井県の陸水生物」(みどりのデータバンク付属資料), 福井県, 67-140.
- 加藤文男, 1992, 九頭竜川下流の汽水域と海水魚の侵入. 福井自然史博物館研究報告, (39), 53-58.
- 加藤文男, 1993, 九頭竜川水系の魚類相. 「河川資源普及指導事業に係わる福井県河川実態調査(九頭竜川)」報告書, 福井県内水面漁業共同組合連合会, 46-95.
- 加藤文男, 1998, 福井県の淡水魚類. 「福井県の陸水生物」(みどりのデータバンク付属資料), 123-203p.
- 川那部浩哉・水野信彦編監修, 1989, 日本の淡水魚. 山と溪谷社, 719p.
- 建設省, 1993, 平成5年度河川水辺の国勢調査年鑑(河川版) 魚介類調査, 底生動物調査編. CD-ROM.

建設省, 2000, 平成10年度河川水辺の国勢調査, 魚介類調査編. CD-ROM. 山海堂.

国土交通省, 2005, 平成15年度河川水辺の国勢調査結果の概要〔河川版〕(生物調査編).

河川環境管理財団, 1996, 平成8年版 河川水辺の国勢調査.

丹羽 弥, 1967, 木曾川の魚. 河川魚相生態学下流編. 大衆書房, 293p.

岡 友章, 2007, 九頭竜川下流域の魚類. 福井陸水学会報, (14), 47-53.

富山一郎・阿部宗明・時岡 隆, 1981, 原色動物大図鑑Ⅱ. 魚綱・円口綱・原索動物, 392p.

辻 幸一, 2005, ゴクラクハゼ. 川那部浩哉・水野信彦編・監修. 日本の淡水魚. 山と溪谷社, 585.

吉田隆男・道津善衛, 2005, ミミズハゼ. 川那部浩哉・水野信彦編・監修. 日本の淡水魚. 山と溪谷社, 626-627.

Notes on the newly collected fishes (brackish water and saltwater fishes) entering into the Kuzuryu River system from Japan Sea

Fumio KATO

Abstract

Twenty-three species in fifteen families were newly collected in the Kuzuryu River system in 1993-2006. They were six species in two families of brackish water fishes and seventeen species in thirteen families of saltwater fishes. The state of going upstream of brackish water fishes and saltwater fishes in the Kuzuryu River was clarified in this paper.

Key words: Kuzuryu River system, newly collected fishes, brackish water and saltwater fishes